

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590100493		
法人名	有限会社 夕月		
事業所名	グループホーム 大塚台		
所在地	宮崎市大塚台東1丁目1番地4		
自己評価作成日	平成27年1月31日	評価結果市町村受理日	平成27年4月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kamiTRUE&amp;JigyosyoCd=4590100493-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kamiTRUE&amp;JigyosyoCd=4590100493-00&amp;PrefCd=45&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成27年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

①地域住民との関わりを多く持つようにし、自治会加入により、回覧板回しは利用者様と一緒に。地域の施設利用や散歩など、地域に出かける機会を増やしている。また、運営推進会議やホームの行事に自治会長や民生委員、地域の方を招待したことで、近隣の方と利用者との交流の機会が増えてきた。②職員全員で理念の再構築を行い、業務優先にならないよう利用者主体のケアができるよう、スタッフ会議や利用者プランで確認をしている。利用者との個別の時間を大切に、個々の希望や意見に耳を傾けられるよう職員全体で取り組んでいる。③ほとんどの利用者が、日中布パンツを使用した排泄支援、衣類の着脱や下膳などの日常生活で出来ることは自分自身でやっていただくなど、自立支援を重視したケアに力を入れている。毎朝の体操の時間には、ラジオ体操をはじめ、ロコモ体操や口腔体操、遊びを取り入れたオリジナルの体操などを行い、筋力低下予防と楽しく体を動かせるよう工夫している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者へのケアを提供する過程で、従来の肘なし椅子では転倒などの危険が予測されるとの意見が職員会議で提案され、利用者に応じて両肘付の椅子と肘なしの椅子が選択できるよう新たに交換された。利用者を主体に考えた提案はすぐに実行している。排せつ支援では、日中は布パンツを基本とするケアを行い、トイレでの排せつができるよう支援している。さらに入浴をしない日には就寝前に陰部洗浄を行い、感染症予防と清潔保持に努めている。家族との関係を密にするため、個別の連絡ボックスを設けている。早めの連絡を心掛けるとともに、連絡ミスを防ぐことができ、家族の協力や参加が得やすくなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念の再構築を図り、施設内の数力所に理念を掲げて、日々職員が理念を共有できるよう努めている。	全職員で入念な話し合いを行い、誰もが理解できるわかりやすい言葉を念頭に、4項目の理念として再構築している。ホーム内の掲示に加え、新入社員への研修や運営推進会議、担当者会議でも周知を図っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入しており、回覧板を利用者と共に近隣に回しに行ったり、また、近所の散歩に出た際に地域の方と挨拶を交わしたりと、地域と関わりながら暮らせるよう努めている。	ホームとして自治会に加入している。回覧板を届けに行くことを楽しみにしている利用者も同行し、近隣の方とのふれあいもある。ホームに入入りする地域の方も、徐々にではあるが増えてきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、認知症の勉強会を開き、地域の方へ認知症の理解を発信したり、事業所での行事に地域の方をお招きし、利用者との関わりを持つことで、地域の方に認知症の理解を発信できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	会議の場には、地域包括支援センターの職員、ご家族、地域住民が出席してくださっている。また、家族からも意見や要望などが出しやすいような雰囲気づくりに努めている。	家族から「もっと家族の利用を」との要望があり、行事の際の協力を依頼している。家族はもとより利用者にも喜んでもらえ、実情を率直に話し合うことが利用者へのサービス向上につながっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所で問題に直面した時は電話で問い合わせたり、直接窓口に出向いて相談をし、問題解決に向けた取り組みを行っている。	課題の大小にかかわらず、電話や窓口に出向き相談をしている。相談をすることで早期に解決の糸口を見つけることができ、職員が安心してケアができるように努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で、安易な鍵の施錠やベッド柵の設置はもちろんのこと、言葉での拘束も身体拘束に含まれることなどを取り上げたり、職員全員で身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員会議の中での勉強会に加え、不適切と思われる場面が見られた場合は、随時、職員同士で注意しあっている。やむを得ず玄関を施錠する場合は、家族の了解を得ると共に、早期の開錠に向け努力している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会に、管理者と新任職員とで出席した。また、日頃から職員は言葉遣いに気を付けており、虐待につながるような言動に気づいた際は、職員間で注意し合えるような環境作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現時点で該当する利用者はいないため、実際は取り組んでいないが、対象者がいる時は速やかに活用したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時は、重要事項説明書等で十分な説明を行っており、納得していただいた上で契約を締結している。入居後でも、気軽に質問や要望を聞き出せるような関係作りに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の場では、集団で話し合いを行うため、家族からの意見は引き出しにくいのが現状である。しかし、面会時や担当者会議などの個々の場では、意見や要望が引き出せるよう努めている。また、面会時には利用者の近況などを家族に報告したり、日頃から意見を聞き出せるような関係作りに努めている。	集団では言えない意見や要望を個別の場面で引き出すよう努めている。家族の「もっと家族を活用してほしい」という意見を受け、行事などの時に協力を要請している。家族はもとより利用者からも大変喜んでもらえ、ホームとしての率直な意見を提案することで、協力関係を築くことができている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員から意見や要望がある際は、時間を設けてゆっくりと会話ができるよう努めている。また、職員からのアイデアが出やすいよう、日頃から、職員と管理者が意見を出し合えるような関係性に努めている。	職員会議や日常業務の中でも、気づきや要望を出しやすい関係づくりを心掛けている。出された要望や意見に対しては、早く対処するようにして職員の士気や資質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員全員の労務状況を常に把握し、職員の意見・要望を聞き、協調性のある働きやすい環境を提供できるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の希望する研修は受講してもらい、ホームで必要と思われる研修は、適任者に受講してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、近隣施設の介護支援専門員研修会のお世話係りを行うことで、同業者同士の情報交換や勉強会を密に行っている。顔見知りの関係を作り、電話や訪問で情報交換を行うことで質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	退院前や入居前には必ず本人と面談を行い、困っている事や要望を聞き出せるように努めている。また、サービス開始前から本人と顔なじみの関係を作ることで、安心して入居できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時には、家族の想いに耳を傾けられるよう、事業所の方針や理念を説明した上で、具体的な要望や不安を聞き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	退院時には、病院のケースワーカーや担当看護師とカンファレンスを行うなどして、本人に必要なサービスを取り入れられるよう工夫している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に洗濯物を干したり、たたんだりしている。また、外回りの落ち葉拾いを手伝っていただいたり、個々の能力や力を引き出せるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りでは、家族と職員が協力して会場の設営や食事作りをし、共に利用者を支えていけるような関係作りに努めた。また、面会時には利用者と家族の時間を大事にできるよう、居室で一緒に食事を摂っていただいたりもしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のご近所様が施設に遊びに来られた時は、居室でゆっくりとした時間を過ごせるよう努めている。また、行きつけの美容院に定期的に行けるよう家族協力の下、支援している。	家族・知人との電話や手紙での連絡の支援をしている。また、利用者から墓参りや美容室に行きたいとの希望があれば、家族の協力を得るようにしている。家族や知人の来訪時は、居室でゆっくり過ごすことができるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士がお互いの居室で談話している時には、夜食をお持ちしたりして楽しい時間を過ごせるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	該当者がいなかったが、契約が終了しても、ケースワーカーやケアマネージャーと連絡を取り合っている。また、ご家族にも退所後でもいつでも相談を受けることを伝えている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時に把握できなかった情報を後日知ることもあり、新たに加味してマネジメントした。困難な場合はセンター方式を取り入れたりしながら、困難な状況を把握できるよう努めている。	思いや意向を表しにくい利用者にはセンター方式(認知症の人のためのケアマネジメント方式)を活用し、得られた情報を職員は共有した上でケアに生かしている。日頃から表情や発せられる言葉から思いをくみ取るよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に状況把握をし、関わっている。また、サービス担当者会議に本人・家族になるべく参加していただいたり、面会時に家族に情報を聞いたりして、個々の情報把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のバイタル、食事、排せつ、睡眠について、個々に看護記録や介護記録をつけることで個々の状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別の記録と再アセスメントやモニタリングは、職員全員の意見を書いて提出してもらったり、職員会議の場でも職員と意見を出し合ったりしている。また、家族にもサービス担当者会議に出席してもらい、意見を頂いている。	ケアプラン更新の時期や変更の時は、全職員から意見を聞き、反映させている。利用者からの意見を得ることが困難な場合が多いが、家族からの意見や要望は丁寧に聞き、利用者主体の介護計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録や申し送り帳の中に利用者の言動や表情などを書き、細かな変化にも気づけるよう努めている。また、気づきがあった際には職員とケアマネとが話し合い、情報を共有できるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	美容室利用の方が一人増えたり、姪の経営するレストランに職員と娘さんとでランチに出かけたりした。個々の希望に応じてサービスの提供ができるよう、日頃から利用者の想いや希望に耳を傾けている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム大塚台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的に近所の美容室を利用している利用者が3名おり、美容室の方とも顔見知りになってきている。また、近所の喫茶店にお茶をしに出かけて、常連さんやお店の方との会話を楽しむ時間も作れた。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、本人・家族にかかりつけ医の希望を聞き、家族協力の下、馴染みの医師からの継続的な医療を受けられるよう努めている。また、施設の協力医は認知症サポート医の資格も保有されており、安心した医療が受けられている。	利用者や家族の意向を受け、入居前のかかりつけ医を希望する利用者には、そのまま継続支援をしている。受診の際は、利用者の情報を家族を通じて、かかりつけ医に提供している。また、受診の結果も家族から提供してもらい、ケアにつないでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から、利用者の状態変化は細かな気づきでも個人記録に記入し、看護師に報告するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院される時は、翌日までには入院先に情報提供書を送り、安心して治療を受けられるように努めている。また、入院時は、病院関係者や家族と情報交換を密に行っている。退院前には必ず病院のケースワーカーとカンファレンスを行い、安心して帰ってこられるよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期ケアの該当者はいなかったが、重度化ケースは、終末期を視野に入れたプランを立てた。家族とは、管理者・ケアマネとの話し合いの場を早い段階から設けた。また、入居時にはもちろん、運営推進会議の場でも、家族を対象に終末期ケアについて確認を行った。	入居時に看取り指針を説明し、同意書を得ている。終末期や重度化した場合は、家族や医療機関等と十分な協議を重ねて対応するように心掛けている。看取りを経験したことで、全職員がチームワークの大切さや家族・関係者との連携の大切さを学んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署主催の応急処置研修に出向き、職員全員で緊急時にも慌てず対応できるように勉強会を実施した。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防からの立ち入り調査、避難訓練を実施している。また、災害時に備えて非常食や利用者全員分の薬などを準備している。	定期の訓練に加え、夜間1人勤務の場面を想定した訓練を実施している。全員が避難するまでの時間を計測し、今後の訓練でさらに時間短縮と安全確保に向けて取り組んでいる。非常用の水、缶詰、乾パン等を準備している。	特に夜間の災害に対しては、近隣住民の支援内容について協議し、依頼することを期待したい。非常用の食品、水、備品についても量や内容について協議・検討することを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員間で虐待や身体拘束の勉強会を行い、尊厳と権利を守るような声掛けに気を配っている。また、業務中でも職員同士で声掛けについて注意したり、検討する場を設けられるような環境作りにも努めている。	利用者一人ひとりの尊厳やプライバシー保護には十分な配慮を意識して、ケアに努めている。不適切と思われる場面があった場合は、職員同士で注意し合うようにしている。新入社員の研修も接遇について時間をとって行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その日の体調や気分で本人が望まれば、食事を部屋食にしたり、体操をお休みしたり、本人の意思決定を尊重できるよう努めている。また、個々の希望や趣味を把握して、本人の望まれる生活スタイルを把握できるよう日々努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や気分に合わせて、就寝時間や食事の時間を変更している。また、業務中心ではなく、利用者中心にケアができるよう、職員同士で協力し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の更衣時に、その日に洋服を選択式で選んでいただくなどして、本人の意向を引き出せるよう支援している。また、希望に応じて定期的に美容院にお連れしている利用者もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	台所は対面式になっており、前を通る利用者が足を止めて手伝いをして下さったり、配膳や下膳もできる方はしている。また、毎日ではないが、職員と利用者が一緒に食事を摂り、食事の時間を楽しめるよう努めている。	旬のものを献立に取り入れ、季節を感じてもらおう内容にしている。栄養バランスや色取りに配慮し、一人ひとりの嚙下やそしゃくに見合う食事になるよう工夫している。下膳やテーブル拭きなど、できることは一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々に応じて、必要な水分量や食事量を職員全員が把握しており、統一した食事量や水分量が摂取できるよう支援している。また、その日のメニューを好まれない利用者には、別メニューでお出しするなどの工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの必要性は、職員が研修を受講し勉強会を行った。義歯の方は、週1回のポリデントと毎食後の口腔ケアで清潔を保持している。また、義歯でない方も定期的に職員が仕上げ磨きをして、磨き残しを予防している。		

宮崎県宮崎市 グループホーム大塚台

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は基本的に布パンツを使用し、個々の排泄パターンを把握した上でトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。	ホームは、排せつの自立に最も力をいれている。昼間は布パンツを基本に、トイレ誘導を支援している。夜間は利用者の排せつパターンや睡眠リズムを考慮しながら声掛けをしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤などの薬に頼らず、食事のバランスを考えたり、個々に応じて牛乳やヨーグルトを摂取して便秘の予防に取り組んでいる。また、毎日の体操に加えて歩行訓練を取り入れたりしながら、運動の働きかけに努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日以外にも必要に応じてシャワー浴を行ったり、体調の悪い日や気分のすぐれない日には居室で全身清拭を行ったりしながら、個々に応じた入浴を支援している。また、毎日の陰部洗浄を実施することでも清潔が保てるよう努めている。	夏場は週3回、冬場は週2回を入浴日に行っている。職員1人が付き添い、1人、もしくは2人浴を行っている。気分がすぐれない利用者には適宜、全身清拭や足浴を行っている。特に足浴時は、利用者が落ち着き、リラックスしてもらうよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に応じて、湯たんぽや電気毛布を使用し、良眠できるよう努めている。また、冬場には午睡前に足浴をしてベッドに入っていたりなどして、気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの内服薬の情報をファイルにとじ、職員で共有し、服薬の支援と症状の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	夜食を居室にお持ちして楽しみを持っていただいたり、ご家族との電話の際は居室でゆっくりと話せるよう努めている。また、雑巾を縫っていただいたり、外の落ち葉を拾っていただいたりして、個々に応じた役割を持つよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	希望のある方は定期的に近くの美容室に出かけたり、スーパーに出かけ買い物を楽しんだりして、気分転換を図れるよう支援している。暖かい時期には、お弁当を持って近くの公園に散歩に出たり、家族と共にバスを貸し切って遠足に出かけたりして、外出の支援を行っている。	利用者の希望に沿う形で、家族の協力も得ながら支援をしている。個別の支援と共に、ホームのみんなで散歩に出掛けたり、花見や車での外出を支援している。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が財布や現金を所有することで安心できる方は、家族の理解の下、所有できるように支援している。また、事業所が本人の預り金を管理していることを利用者に伝えており、必要な物や嗜好品の希望があれば、買い物代行している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話の際は、気兼ねなく会話ができるよう個室に子機をお持ちしている。また、家族と電話がしたいと希望のある方は、家族協力の下、定期的に電話で会話ができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールの窓際は日当たりが良く、利用者がソファに座ってくつろぐ姿が毎日のように見られる。また、掲示板には季節感を感じられるような飾りをしたり、テーブルに季節の花を飾ったりして、外出の機会が少ない利用者にも季節を感じてもらえるよう工夫している。	さりげなく季節の花を飾り、人形などを置くようにしている。食事時はテレビはつけず、静かなBGMを聞きながら、落ち着いて食事ができるようにしている。日時に敏感な利用者がいれば、家族と協議し、ホールのカレンダーを除去し、利用者個々の居室に配置するなどの配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファや食卓の椅子などを配置しており、利用者がテレビを見たり日向ぼっこをしたり、思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、大切な人の遺影や使い慣れた寝具・家具はもちろん、好きな音楽が聴けるようCDラジカセを置いたりして、居室が居心地のいい場所になるよう工夫している。	備え付けのベッド、たんす、クローゼット以外は利用者や家族の意向も聞きながら、整えている。居室の清掃も職員と一緒に、できることを手伝ってもらっている。利用者にとって最も安心して落ち着いて過ごせる空間であることを意識して対処している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車椅子の方でも、食事の際は椅子に移乗して食事が摂れるように、座面の広い肘置き付きの椅子に全脚変更した。また、ホールは最低限の家具を配置して、利用者が安全かつ自由に動けるよう工夫している。		